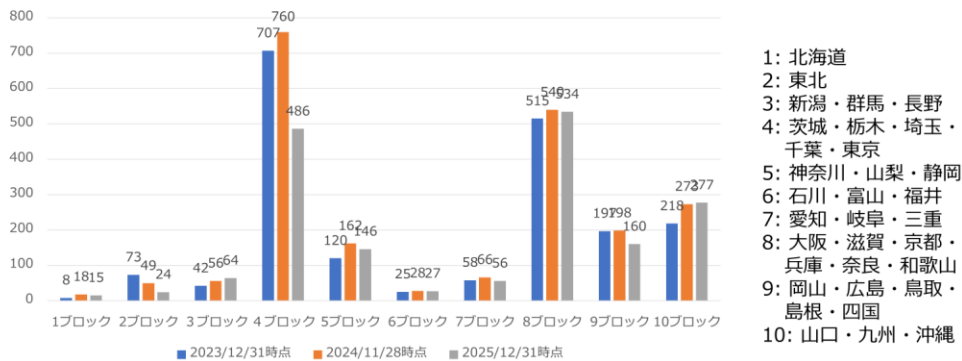


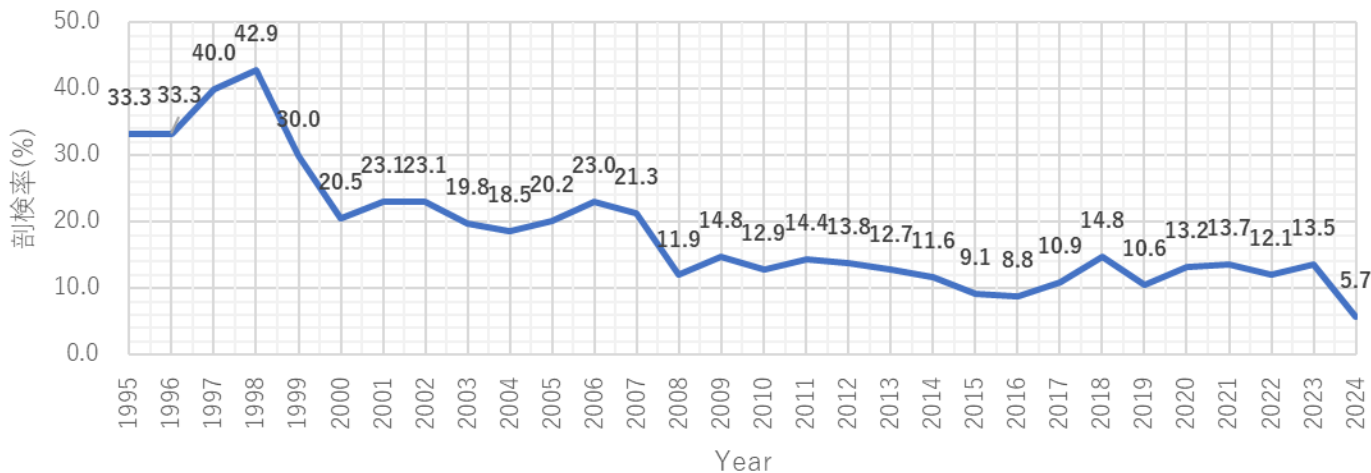
わが国のサーベイランスの課題とその対策

研究分担者：国立精神・神経医療研究センター病院総合内科 長田高志

ブロック別未検討症例数(2025年12月31日現在)



プリオン病の剖検率の変化(2024年9月現在)



解 説

- 最近3年の未検討症例数を検討した。ブロックごとに新規症例数の違いがあるため、数字に差はあるものの全体としては横ばいから減少傾向にあると考えられた。
- 剖検率問題の解決策として、(都道府県をまたいだ)剖検可能な施設のセンター化、サーベイランス委員会病理専門医による出張剖検、関係学会との協力、転院先と事務局との情報交換の活性化などが重要である。最近の剖検率の改善は、サーベイランス委員会病理部門の出張剖検、遺体の搬送による施設を超えた剖検の実施などによるものである。